

## 第3章 緑と景観づくりの理念

### 3-1 計画の基本理念

# 水と緑の風景を大切に、自然と共生する “美しいみよし”づくり

本市は、名古屋市中心部から東へ約 17km、豊田市中心部からは西へ約 7km に位置し、積極的な住宅地開発や工場誘致により順調に発展し、平成 17 年国勢調査では人口増加率も愛知県内トップで今後も人口の増加が予想されています。また、本市は、西三河平野の北端に位置し、全体的に南から北に向かって徐々に高くなっていく低起伏な丘陵地地形をしています。三好池をはじめとするため池の整備や愛知用水の通水、ほ場整備<sup>※1</sup>などが進められたことから、米や柿、梨、ぶどうといった果樹が特産の農業のまちとしても発展してきました。


平成 22 年 1 月に「みよし市」となり、「みんなで築く“ささえあい”と“活力”の都市」を目標に、共にささえあい誰もが住みなれた地域で安心して住み続けることができ、活力みなぎる都市づくりを進めています。

本市の緑と景観の特徴は、きたよし地区のさまざまな動植物が見られる自然林、なかよし地区の三好公園など公園や緑地を中心とした緑の拠点、みなよし地区の広がりのある農地と大規模な工場緑地となっています。さらに、本市を北から南へ流れる境川や砂後川などの河川、三好池や保田ヶ池などのため池が市内に点在し、身近に水のある景観を呈しています。既成市街地や集落では、本市の歴史風土を語る八幡社や八柱神社などの社寺林があり、地域の祭りや郷土芸能の場としても息づいています。土地区画整理事業により、都市公園の整備は順調に進み、都市公園以外の児童遊園などの広場も全市にほぼバランスよく配置され、身近なレクリエーションの場として地域住民に活用されています。

本市では、土地区画整理事業が広く行われるなど、整然とした市街地景観が見られる一方で、南部地域の広くのびやかな農地の景観や境川・三好池などの自然景観が見られることが魅力的な景観となっています。

一方で、全国的に緑を取り巻く環境としては、地球温暖化やヒートアイランド現象、身近な生き物の著しい減少など緑の減少が一因である環境問題が深刻化し、緑の都市再生が大きな課題となっています。平成 20 年 7 月に北海道洞爺湖で開催されたサミット（主要国首脳会議）においても環境・気候変動といった問題について各国首脳が議論し、森林減少対策や

※1 用語集p.巻末 4参照。



生物多様性の保全、3R<sup>※1</sup> など地球規模でこれらへ取り組むことが宣言されました。身近な住民レベルでは、「自然環境」の良さがみよし市に住み続けたい理由として最も多く、「緑・自然・環境を大事にすること」が、今後よりよいみよし市にしていくために必要なことであると認識されています。

また、愛知県では、「愛知県広域緑地計画」を策定し、多様な主体による県民協働を基本として、「環境」「安全」「活力」「生活」の緑を適切に保全・創出していくことにより「都市と自然が調和した環境にやさしいあいちの緑づくり」を実現していくことを目指しています。本市においても、「環境」「安全」「活力」「生活」の視点を踏まえた緑のまちづくりを目指します。

このように、緑の重要性が高まっている中で、緑の保全と活力あるまちづくりを進めるためには、今ある緑を保全・維持するだけでなく、減少する緑の量を補うことが求められます。

私たち（住民・事業者・住民団体・行政）は、緑との関わりを深め、また、先人から受け継いだ美しいみよし市の緑と景観を未来へ継承していくため、それぞれの責務において協働しながら緑を守り、つくり、増やし、育て、つなげることによって水と緑の風景を大切にしたいまちを築くことを目指します。そして、人と人とのささえあいを大切にして、誰もが安全で快適に暮らせるまちを目指します。

以下に、本市の緑の将来像を示します。

---

※1 用語集p.巻末 1 参照。